

道徳科学習指導案

主題名「だれにたいしても」〔学指要領：C-13 公正、公平、社会正義〕

令和7年10月 第2学年 指導者 新井 正樹

I 主題設定の理由

1 価値観

本主題は、C-13「公正、公平、社会正義」に基づき、「民主主義の基本である社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞うこと」に関する内容項目である。

社会正義とは、人が大切にすべき価値観を、社会全体で実現することである。公正で思いやりのある社会を築くには、一人一人が物事の真実を見抜く力を養い、互いを尊重し、思いやる心を育むことが大切である。

低学年の児童は、発達の特質から自己中心的な考え方になりがちである。そのため、みんな自分と同じように考えていると思ひ込み、自分と違う考えや感じ方をする人を否定してしまうことがある。また、好き嫌いだけで相手に接してしまうことも少なくない。社会のルールや正義を学ぶ上では、こうした自分の感情にとらわれるのではなく、誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。

2 児童観

研究協力校の児童は、全体的に明るく活発で、友達と遊ぶことや助け合うことに意欲的である。困っている子を助けるなど、良好な人間関係を築いている姿が見られる。一方で、遊びのメンバーが固定化しており、特定のグループ以外の子供との交流が少ないこともある。また、遊んでいるときに、後から来た友達を仲間に入れてあげないなど、周囲に流され、不公平な態度をとることが時々見られる。不公平な態度がいけないことだと理解はしているものの、それを判断することが難しい。また、そのような態度をとることによって、嫌な気持ちになる友達がいることへの意識が低いと感ぜられる。そこで、教材や他者、自己との対話を通して、相手の考えや気持ちを理解すること、そして誰に対しても分け隔てなく、平等に接することの大切さに気付かせたい。

3 教材観 教材名「雨ふり」（出典：光村図書）

本教材は、主人公の「ふみお」が傘に入れてほしいと頼む「ひろみ」と「のりこ」のうち、仲の良い「のりこ」だけを入れようとするが「のりこ」は、それを断り、「ひろみ」と去っていき、その姿を見た「ふみお」が、自分の不公平な考えの愚かさに、はっと気付かされる、というあらすじである。

本教材は、「ふみお」に自我関与することで、普段の自分の言動を振り返り、相手に対して自分の好き嫌いによって言動を変えていたことに気付くことのできるものである。また、「ふみお」がどうしてはっとしたのかについて着目させることで、相手によって態度を変えることがよくないことを理解し、誰に対しても分け隔てなく、平等に接することの大切さに気付くことができる。

4 研究との関わり

本学級の児童は、興味があることに対して活発に発言することができる。道徳科の授業においては、自分が興味のあることに関してたくさん意見を言い、登場人物の気持ちに共感することができる。しかし、他者の意見に対して関心が低く、考えを深めることができていない。また、教材から離れて自分事として考えることも難しい傾向が見られる。

そこで、友達との対話から、道徳的価値を自分との関わりで深めること、自分の経験と結び付けて道徳的価値を捉え、自分の考えを深めることができるようになってほしいと考え、本研究テーマを設定した。

授業の中で、手立て1として、道徳的行為に関する体験的な学習（役割演技や動作化）を取り入れ、自分の考えをもつことで、他者の考えと自分の考えを比較したり、共感したりするなど、意見交流を行う。その際、児童のせりふや表情（葛藤している様子、道徳的価値に迫っている様子、人間理解につながっている様子）などを取り挙げ、そのときの心情や理由を問い、意見交流して深める。

手立て2として、振り返りを「自分への手紙」とし、「これまでの自分」、「今の自分」、「これからの自分」に向けたメッセージを考えるようにする。

以上の手立てを講じることで、「自分事として道徳的価値を捉え、自分の考えを深める児童の育成」につながると考えた。

II 本時の学習

- 1 **ねらい** 動作化や役割演技（手立て1）、自分への手紙を書く活動（手立て2）を通して、自分の考えをもち、友達との考え方や感じ方の違いに触れることで、相手によって態度を変えることがよくないことを理解し、誰に対しても同じようにしようとする道徳的判断力を育てる。

2 展開

主な学習活動 主な発問(◎中心発問◇補助発問) 予想される児童の意識〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 (導入5分)</p> <p>S：自分には貸してくれないけれど、他の子には貸してくれた。</p> <p>S：遊んでいるときに、まぜてくれる人とまぜてくれない人がいた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて></p> <p>だれにたいしても同じようにすることは、どうして大切なのだろう。</p> </div> <p>S：嫌な気持ちになる人がいるから。</p> <p>S：けんかがなくなるから。</p>	<p>○自分事として公正、公平について考えることができるように、事前に行ったアンケート結果を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不公平だなと思ったことはありますか。それは、どんなときですか。 <p>○自分の考えをもつことができるように、めあてに対する自分の考えを書くように促す。</p>
<p>2 教科書の教材文を基に動作化や役割演技を行い(やってみようタイム)、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(手立て1) (展開①26分)</p> <p>(1) 範読を聞く。(ふみおさんがお願いされた場面(p96.7行目)まで)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ふみおくん、入れて」と言われたとき、ふみおさんはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> </div> <p>S：のりこさんは、仲良しだから入れてもいいけれど、仲良くないひろみさんは入れたくないな。</p> <p>(2) 範読の続きを聞いて教材文を3人1組で動作化し、感じたことを交流する(手立て1)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇のりこさんが傘に入らなかったのは、どうしてでしょう。</p> </div> <p>S：自分だけ入るのは、ひろみさんに悪いと思ったから。</p> <p>S：相手によって、入れる入れないを変えるのはよくないと思ったから。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎はっとしたとき、ふみおさんはどんなことに気が付いたのでしょうか。</p> </div> <p>S：ひろみさんだけ仲間外れにして、悪いことをしてしまったな。</p> <p>S：のりこさんにも嫌な思いをさせちゃったな。</p> <p>S：仲のよいのりこさんを入れたかったけど、やっぱり二人に同じようにできればよかったな。</p> <p>(3) 役割演技を行い、自分ならどうするかを考え</p>	<p>○登場人物の関係や置かれた状況を理解できるように、範読の前に登場人物の関係図を提示する。</p> <p>○ふみおさんの気持ちに共感することができるように、範読を途中で区切り、拡大した挿絵1のふみおさんの表情から、その際の気持ちを問い掛ける。</p> <p>○場面の様子を視覚的に捉えられるように、班ごとの動作化の前に教師(ふみお)と児童二人(のりこ、ひろみ)での示範を確認するよう促す。</p> <p>○動作化する際、役割が明確になるように、せりふの書いた役割のカードを持って行うよう促す。</p> <p>◎道徳的価値を多面的・多角的に捉えることができるように意見交流を行い、3人それぞれの立場から感じたことを問い掛ける。ねらいとする価値に遠い立場(ひろみ→のりこ→ふみお)の順で問う。</p> <p>○教材と自分の心の動きを重ねながら道徳的価値に迫れるように、児童が答えた後に問い返しやゆさぶりをを行う。</p>

<p>て表現する。</p> <p>◇もう一度、同じ場面があったら、何と答えますか。</p> <p>S：「いいよ、一緒に帰ろう」その方が、みんなが笑顔になれる。</p>	<p>◎役割演技を受けて、道徳的価値の理解を共有できるように、気持ちを問い返したり、価値付けたりする。</p> <p>○主語を入れずに児童に問いかけることで、登場人物から離れて自分の言葉で考えられるようにする。</p>
<p>3 道徳的価値に対する多様な考えを知り、学習のめあてについてももう一度考える。 (展開②7分)</p> <p>S：みんながいい気持ちになれるから。 S：みんなが仲良く過ごせるから。</p>	<p>○本時の教材で扱った場面以外についても考えることができるように、児童が公正、公平に接することができるような場面絵を提示する。</p>
<p>4 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを「自分への手紙」として振り返る(手立て2)。 (終末7分)</p>	<p>◎道徳的価値を自分事として捉えることができるように、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」への手紙を書くように促す。</p> <p>○最初の考えよりも深まったことが実感できるように、考えの変わったところはないか問いかける。</p>
<p><振り返り：自分への手紙></p> <p>S：今までは人によってすることを変えていたね。でもそれは、相手が嫌な気持ちになるよ。これからは、みんなが仲良くできるように、相手のことを考えて、区別しないようにしようね。</p>	

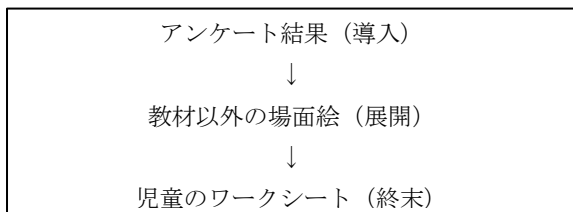
◆評価の視点

発言、ワークシートの記述から、「誰に対しても分け隔てなく、平等に接することの大切さや難しさについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。

発言、ワークシートの記述から、「誰に対しても分け隔てなく、平等に接することの大切さについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。

3 板書計画

【電子黒板】



【黒板】

